

令和6年度 第3回学校運営協議会 議事録

日 時：令和7年2月5日（水）10：00～12：00（於 会議室）

委 員：6名（1名欠席）

参加委員：5名（過半数）で、本日成立。

●令和6年度学校経営計画評価（校長）

・学校教育自己診断の生徒保護者対象に行ったアンケートの回収率が減少しているのが課題。紙媒体を希望した家庭には紙ベースで配付するが、基本的には Google を使用し、回収率を上げていきたい。

・児童生徒の対象別では、肯定的評価が7項目中6項目。進路についての項目が特に低く、子どもに伝わるような具体的なイメージを持たせるのが課題。

・保護者対象では、16項目中、全項目で肯定的評価が80%を超えている。ただ、昨年度は90%以上が6項目、95%以上が3項目だったので減少している。

・いじめ対応で昨年度を大きく上回る+19.6%の増加があった。いじめ防止対策委員会などを充実させたことで、保護者との情報共有が反映できたのではないかと感じる。

・教職員で上昇した項目は、事務職員と教職員の連携。反対に、下がったのは評価に関すること。

・防災防犯の項目も下がっている。

・今年度の計画目標として掲げた『カリキュラムマネジメント、PDCAサイクルの確立』は、時間割やカリキュラムを年度で大きく変えていけるシステムや課題認識が進んだからと感じている。次年度も引き続き、積極的に議論をして、改善していけるというリズムを作っていきたい。

・防災防犯では、南海トラフに対する意識が高まった中で、備えを充実させていきたい。

・中期目標の『授業見学参加（100%）』では、96%以上を掲げていたが、10月時点では1/4（23.6%）だった。授業計画週間というのを打ち出していたが、なかなか進まなかった。

・カリキュラムマネジメントのスケジュール作成では、評価指標にしていた教育活動全般の評価改善というところで課題認識は進んだのかなと感じる。

・センター的機能として、障がい理解についても上げていきたい。特に自立活動の実践をシェアしていくところは児童生徒支援部が中心に担っているが、全校的ではなかった。日々の支援を自立活動の視点でチームとして見ていきたい。

・中期目標の『自立・自己実現、社会参加』では、自分の役割分担や自分で選択するような場面を、教員側が意識して設定している。子どもたちが『何のためにやっているのか』と思うところを、将来に繋げていく。

・『人権尊重・生命を大切に』という項目は、95%以上をめざしていたが、91%と減少してしまった。年間数件、保護者から指導支援についてご意見をいただく場面があり、安心安全に対しては更に、安心感を持っていたできるように取り組んでいかないといけない。

・『いじめ』のところは、去年64%で今年は84.2%と大きく上回った。児童生徒支援部を中心に、いじめ防止への取り組みを具体的に進めた。1件、いじめ認定した件もあり、その対応が数字として出てきたと思う。

・『校務の効率化と働き方改革の推進』では、ICTの更新というのが秋から年末にかけて行われ、それに関する関係教員の作業が非常に大きく関わっている。

●令和7年度学校経営計画及び学校評価（校長）

・最上位目標は同じ。中期的目標は三年をめどに『たのしく、ゆたかに、げんきよく』の三つの柱。

・コロナ時代の目標だった『オンライン学習体制の推進』というのを削除した。ただ、不登校傾向がある児童生

徒に対して、オンラインを活用してホームルーム参加への活用はできるため、必要性や授業実践 ICT を活用した授業実践の推進ということで、引き続き続けていきたい。

・『センター的機能の発揮と、校内の支援教育力の向上に向けた外部専門家活用とコンサルテーションの充実』では、コンサルテーション（ケース会議のようなもの）にプラスして、いろんな専門の、違う分野が集まって一人の児童生徒の支援目標や方策を考えるのが目的。

・臨床心理士やPT、OTなどの外部人材機関を利用して、専門的な人材を生かしたコンサルテーションの体制を作っていきたい。

・外部人材機関コンサルテーションの充実として、R8年度は実践、R9年度には成果・課題を挙げて、吹田学びスタンダードの原型が出来上がる。

・『ゆたかに』という地域人材の活用としては、地域とOBとの連携を探っていきたい。

・『げんきよく』では、人権尊重、障がい特性、特に医療的ケアについて、小学部で課題がある。

・年間で12月をめぐりに総括し、1・2・3月で一年のカリキュラムマイナーチェンジをはかる。

・担当首席を中心に、コーディネーター・リーディングスタッフが地域の小中学校へ支援を発信している件を、内向きの人材育成に活かして行くのも、センター的機能の発揮と結びつく。

・キャリア教育では、キャリアマップを活用し、外部福祉機関企業と連携した職業分野の作業に取り組む。特に喫茶サービス・清掃については、マニュアルがあることで、変わらないクオリティを完成させることが大事。

・ケーススタディを一つの事例として全教員で共有し、『自分だったらどう対応するか』という振り返りを促す。

・管理職による、人権に配慮した生徒支援に関するケーススタディを実施。

・道徳、ホームルームを活用した、指導内容・目標の整理をして、小・中・高で人権に配慮した教育課程を整理していく必要がある。

・『危機管理』の防災については、吹田市との連携や、本校OB保護者でもある防災士の先生としっかり連携してやっていきたい。具体的には、福祉避難所の指定に向けて、積極的に動いていく。

・PTA活動の見直しを検討。加入率を極力維持するため、魅力の発信や存在意義をどうアピールしていくか、役員体制も含めて進めている。

●令和6年度進路進捗状況報告（進路主事）

・卒業後どのように過ごしているか、時々連絡を取っていきたい。企業就職する生徒、グループホームに入居する生徒、すでに在学中からグループホームに入っている生徒でも、就職してその仕事に慣れるまでの一番大変な時期に生活の場が変わるので、一段とサポートが必要。

・生活面では、方々の関係機関と連携しながら定着するようにサポートしていきたい。

・ここ数年、自立訓練のニーズが高い。

●中学部授業見学（中学部主事）

・中学部は大きく三つのグループA・B・Cと分かれており、認知面も幅広く、積極的に発言する生徒や、集中力が短い生徒がいる。

・授業に楽しく取り組めるように、先生方には工夫してもらっている。今回の授業は家庭科。スーパーで季節感なく見られる食材にも、食べ時や捕り時といった『旬』があることを学び、季節の食べ物とそれを生かした料理について学習している。

●職業コースによるティーサービス（進路主事）

協議会の休憩時間に今年度から職業コースでスタートしている接客サービスの実践を行いました。生徒は緊張した様子で接客し、委員の方々から賞賛と励ましの言葉をいただきました。

●協議『時代のニーズに応じた授業づくり』

(委員)

- ・先生たちのストレス者の割合が高く、心配。
- ・余裕がないと、周りにも（一緒に働く先生たちにも子どもにも）優しくできないと思う。
- ・先生たちにとって、仕事がしやすい環境が整うに越したことはない。先生たちが自分で声を上げる必要はあるが、上（管理職や首席部主事）の先生たちが気づいて環境を整えていくことが大事。
- ・保護者は素人であり、自分の子しか分からないし、自分が育ってきた環境で築き上げてきた価値観がある。
- ・素人だからこそ、色々なことを持っている色々な先生たちに、学校として『この子にこういう経験をしてほしい、こういう大人になってほしい、今こうしていきたい。』というのがあるのなら、どんどん言ってもらって、導いてもらえると、保護者としても知る機会になるし、ありがたい。

(座長)

- ・保護者の立場としてのご意見を頂けるのはすごく大きい。
- ・教員が『相談したい』という時に、校長のところへ話しに行く前に、教員間で話しやすい人に聞いてもらったり、相談できたりする体制が大切。
- ・ただ、言葉に気をつけないと、かえってプレッシャー与えてしまう時代。お互いに関係性を高めていくのが理想。

(委員)

- ・分掌が減っているが、残業が増えたり高ストレス者が増えたりしているのは、業務とのバランスが問題。保護者のニーズへの対応等も関係あるのではないかな。
- ・進路選択をする時に、実習先の中で家族としては『なぜここ？』と思われるかもしれないが、先生方は普段の様子を見て、『もしかしたら、この子にはこういうところが合っているかもしれない。』とか『(その子の) こういうところを見たいから、あえてこういう場所を選んでいる。』ということも考えられている。
- ・1番近いところで保護者は見られていると思うが、それとはまた違った客観的な視点から見ているというのが先生方の意見。
- ・『「何で？」と思うことがあるかもしれないが、そこは先生たちから話を聞いて、進められたらいいと思います。』という話をさせてもらっている。
- ・就職した後や、社会に出た後は、日中の活動の場所でできることがかなり限られている。
- ・本人の発信力や、本人発信が難しければ代替手段が何なのかを確立していくことが大事。
- ・保護者の意見として、情報の共有が少ない。『知らなかったから、あるなら言ってほしかった。』という方もいれば、知っている方もいて、その差が何なのか？
- ・高等部に入ってから、『懇談の機会が減った。』という方もいれば、『懇談期間というのがあるから、お願いしたらしてくれる。』と、情報を得るのが得意な方・苦手な方などがいる中で、連携が取りづらいと考えている方もいるのではないかな。
- ・『情報を得るのが苦手』という保護者は、先生方や支援者が思う以上に多いのではないかなと思う。
- ・在学中の保護者に関しては、ある程度先生方が分かっておられるとは思いますが、自分で調べて情報を獲得するのが不得意という方は少なからずおられるということを確認している方が良い。

(委員)

- ・授業見学を空き時間に行かなければいけないことの必要性をどれだけ捉えているか。先生たちも分かっているが、なかなかそこに行けない、行かせてあげられないというバランスが難しい。

- ・限られた空き時間では、授業を見に行くより、自分のことを先にやっておきたいと思ってしまう。
- ・先生方の仕事の持ち帰りや残業時間は、多少減っているが、どうしても底なし沼のようになってしまう。『やるな。』と僕らの立場で言えないし、落としどころを見つけるのが難しい。
- ・支援学校は個々に違いがあるので、一時間の授業でもどの子にポイントを当てるか、授業づくりが難しい。
- ・風通しの良い職員室づくりとしては、情報を交換する中でクリアできればと思っている。
- ・災害訓練では、まず知識としてどれだけ落とし込むか。南海トラフ地震で、ここはおそらく浸水地域。その中でどういう行動をしなければいけないか。更に、避難所として地域の方が来られる。そのことを子ども達にどう伝えていくのが課題。
- ・PTA組織の再編もいろんな課題がある。

(委員)

- ・保護者も悩みながら、支援学校に決められた方や地域の支援学級にされる方がいる。
- ・杉の子に入るまで、悩みながらも杉の子学園に来て、これからどうしていくというところも色々話しながら進めているところ。
- ・将来が不安という声も聞いている。
- ・職員のストレス度合では、風通しの良い職場づくりはどこ職場も一緒だなと感じた。制度や書類など、変わっていくことが多い中、対応に追われ、なかなか早く帰ることができない。

(座長)

- ・一番のテーマである『時代のニーズ』というのと、教員が子どもたちのことを思うニーズ、保護者のニーズが必ずしも合致しない。情報共有が大切。
- ・希望される進路の部分の部分を踏まえて、特に高等部の授業づくりとしては変わってきているか？自立訓練への希望が多いというのは、就職よりも大学進学する時代になっているように、もう少し土台をしっかり作ってからというような保護者ニーズが強いのか？

(進路主事)

- ・兄弟が大学や専門学校に進学する時代。18歳で障がいのある子が、卒業してすぐ仕事というのはかわいそうだと思う保護者も多い。
- ・今は自立訓練の事業所も充実しており、基本的に送迎はないが、送迎があるタイプ自立訓練も二箇所ある。だからこそ、卒業後はまだ学校の延長のような感じで友達と一緒に楽しく活動ができる場所に行けたらいいと思われる保護者が多い。
- ・保護者同士の繋がりも深く、先輩保護者から話を聞いたり、まずは自立訓練に行かせたいと言われてたり、ここ最近本当に多い。
- ・ただ、自立訓練の送迎があると言っても、自立訓練は支援者の人数が生活介護より確実に少ない。自分でできることは一つでも多い方がよい。
- ・集団の中で自分の気持ちが出せたり、何か困ったときに相手に伝えたりする力は自立訓練でもどこに行っても大事。
- ・だからこそ、学校の授業や活動の中で自己発信力をつけることを大事にしていきたいと、どの教員も思っている。

(委員)

- ・選択肢が増えているという点では良い方向性だが、選択というのが、本人のニーズなのかというところがある

ので、一概に良し悪しは言えない。

・二年間通って、その後に違う選択肢を考えるという、ゆとりのある期間と考えればよい。就職する方も一般的に増えている。

・就職するまでの課題が、どこまで高校生の中で出来るのかと考えると、やっぱり自立訓練の二年間があったらよいと思う。

(委員)

・時代のニーズに応じた授業づくりとは、何をするのか、ぱっと言われても保護者は分からない。

(委員)

・『確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校』という府の指定を受ける予定。その中で、『何をしたらいいのか?』と話題になっている。

・他校の先進校の取り組みの話の聞いたりすると、『非認知能力の育成』ということが出た。

・何をしたら良いのかというところでは、まずアウトプット。

・アウトプットする中で、次は伝え合う、その次は会話から対話。プロセスをオープンにし、授業の中でどれだけ対話を生み出していくか。

・対話を重視した授業づくりをめざしていくと、自ずと主体的対話的で深い学び、深いところまでいけるのかなと思う。

(座長)

・大学の授業も今や講義型じゃなく、アウトプット。

・一番大事なのは、生徒役として授業を受けた時に、自分がどう感じて、その次に自分が授業をする時には、他の人の何を盗んで、『あれは自分もやりたいな。』と思える気持ち。

・今、小学校も中学校も支援学級が増え、在籍者がすごく多い。その子たちが進学する時に、8割ぐらいの子が来たとしたら、支援学校は今の数では絶対足りない。

・支援を要する子どもたちが、支援学校ではない私学等に進学し、そこで本当に『個々のニーズ』に応じてもらえるのか、取り残されないか、不登校になってないかと思ってしまう。

(委員)

・通信制を選ぶお子さんも多い。支援の必要なお子さんに限らず、さまざまな生徒が進路先としてあらゆることを希望している。アクセスの良さも大いに関係している。

(座長)

・全国的に進学先の数字を見ると、大阪の高等学校では定員割れしている所が増えてきている。

・校長先生がイメージされる『時代のニーズ』にあった授業づくりとはどんな感じか?

(校長)

・教員の負担で『授業準備』に時間が費やされているので、そこをなんとかしたい。

・『学び方の変化』として、教師が教える授業ではなく、子どもたちが一人1台端末を活用し、自ら知恵や知識をとっていく時代。今までのように、教え込む授業の準備をしなくても良いのではないか。

・端末を使いながら、学び方の流れを作り、それを共有することで、授業準備の軽減はできるのではないか。それを『学びスタンダード』にしていきたい。

・『学び方のニーズ』や『教員側の負担軽減』を進めていきたい。

(座長)

・『時代のニーズ』といえど、支援学校の場合はどうしても保護者のニーズになってしまい、進路状況も保護者のニーズが強い。

・先輩が大学に行ったことで、後輩が『大学っていうところに行ってみたい。』という希望も出てくるのではないだろうか。

・『学びに向かう力』『主体的学習に取り組む態度』をどうやっていくかは、最終的に『教える授業ではなく、自分からアウトプットできること』を考えていかなければならない。

・先生方が授業づくりに費やす時間が、高ストレスだったり、時間がなかなかなかったり、いかにそのストレスが抑えられるような体制を作れるかが重要。

・教員数を増やしてもらって、ある程度余裕を持って授業づくりやいろんな準備ができる環境が必要。

・アップデート会議など、これからの時代に応じた形がどんどん先生方にも伝わっていくと思う。

・我々のそれぞれ違った立場での意見も入れてもらいながら、次年度に向かっていきたい。

(委員)

・20年前は職員がやることを提示してやっていた時代。今は、子どもたちが好きなものやみんなで見えを出し合って、自分の意見や友だちの意見も大事にして、形にして、それを人に披露して、拍手をもらって、楽しかった・嬉しかったという経験を大事にしている。

・『自分が世界を変えられる』というところに繋がっていると感じる。

・幼少期（保育園）で頑張っていることが、学校で引き継がれ、それがスタンダードになって、その子が大人になった時の世界が楽しみ。

・ただ、何かを変えるのは大変で、今はしんどい時期だと思うが、関わってくれている方々に本当に感謝している。